



Keio Business
慶應義塾大学大学院経営

EXECUTIVE MBA

重責を担う経営人材の育成を
キャリアと両立させるプログラム

LEARN TO LEAD



慶應義塾大学
大学院経営管理研究科

LEARN TO LEAD

LI

真に教育する場を目指して

次世代経営の担い手を



“KBS50年の知見を全て注ぐ”

慶應義塾大学大学院経営管理研究科(以下KBS)は、日本で初めてエクゼクティブに特化した学位プログラム「Executive MBA」を2015年4月に開設します。50年以上にわたり培われてきたKBSのビジネス教育・研究に関する知見を総動員し、企業・組織を先導する中核ミドル人材の経営能力を、職責を全うしながら徹底的に鍛えるプログラムです。

この「鍛える」という言葉に、本プログラムの特徴が表れています。

“徹底的に討論し、考え抜く”

1年目は、単なる講義ではない「ケースメソッド」を中心とした双方向型の授業により、経営に不可欠な基礎知識(リテラシー)を改めて体系化します。毎月行われる著名な経営者の講義も、質疑応答や討論に主眼をおき、先人の使命感や理念を学びとることを重視します。2年目は、国内外でのフィールドワークに取り組み、対象企業の課題を分析し解決策をビジネスプランとして提案する過程から、新たな事業を構想し具現化する力を鍛えます。対象企業に深く入りこみ、仲間と徹底的に討論し考え抜く体験は、キャンパスにいたるだけでは身につけにくい問題解決力とリーダーシップ、コミュニケーション能力を徹底的に鍛えます。異業種の優秀な人材と学び合い、異文化のフィールドで互いに切磋琢磨する2年間のプログラムにより、中核ミドル人材には「自らが所属する企業や団体は社会にどう貢献すべきか、アジアや世界の経済社会の中でどんな役割を果たしてゆくべきか」という世界的なビジョンが醸成されます。

“世界視点で経営を最適化する人材を送り出す”

経営の最適化とは、単に経済的外部環境と自社の企業活動を整合させ、グローバルな市場競争に勝つことだけを意味するものではありません。より高い視点に立って、少子高齢化・格差社会・環境破壊といった深刻な問題を抱える地球社会と企業との関係を最適化することが求められています。企業経営内外に課題を見出し、解決を先導する、真にサステイナブルな経営を実現できる人材…そんな次世代経営の担い手候補たる中核ミドル人材をこのプログラムは育成します。

EXE

委員長
河野宏和

本プログラムの
特徴

KBSが誇るケースメソッドの学びと
国内外のフィールドでの実践体験で
多業種の優秀人材が互いに切磋琢磨

CUTIVE

中核人材が集う場で学ぶ

- 参加者は、職務経験15年以上、30代後半〜40代前半の中核ミドル
- 企業や団体の次世代経営を期待され、選抜された優秀な人材が集う
- 日本企業の経営を充分に考慮したプログラム

職責を果しながら学び、 学びながら使命感を深める

- 実務に貢献しながら経営を学び、学んだことを「即時に」実践に移す
- 平日は職責を全うし、土曜日と短期合宿型授業で集中的に学ぶプログラム

自らを鍛え、グローバルに 勝負できる人材になる

- 実際の企業でのフィールド調査や経営者との討論を通じて
経営の最前線を体得
- グローバルな経営能力を涵養する国内外の多彩なフィールド研究

経営リテラシーを深める

- 50年以上の実績を誇る慶應型ケースメソッドを中心とした
双方向型・参加型の授業
- 経営の本質と基礎を理解するために必要な
8分野の経営のコア能力を修得



EMBA 2 YEAR

経営的視点と実践を重視した
充実の2年カリキュラム



1年目 にやること

経営の中核を担う人材に求められる経営のコア能力の修得

1学期

経営のコア能力の確認と強化
・ビジョナリー科目
オリエンテーション合宿
・コア科目
・経営者討論科目

2学期

経営のコア能力の強化とグローバル体験
・コア科目
・経営者討論科目
・グローバル経営科目

3学期

経営のコア能力の応用
・コア科目
・ビジネス・ゲーム
・フィールド科目
オリエンテーション

2年目 にやること

実践による能力の開発と提言などによる発信力の強化

1学期

フィールドでの実践的訓練
・専門科目群から選択
・フィールド科目
研究～調査～提言

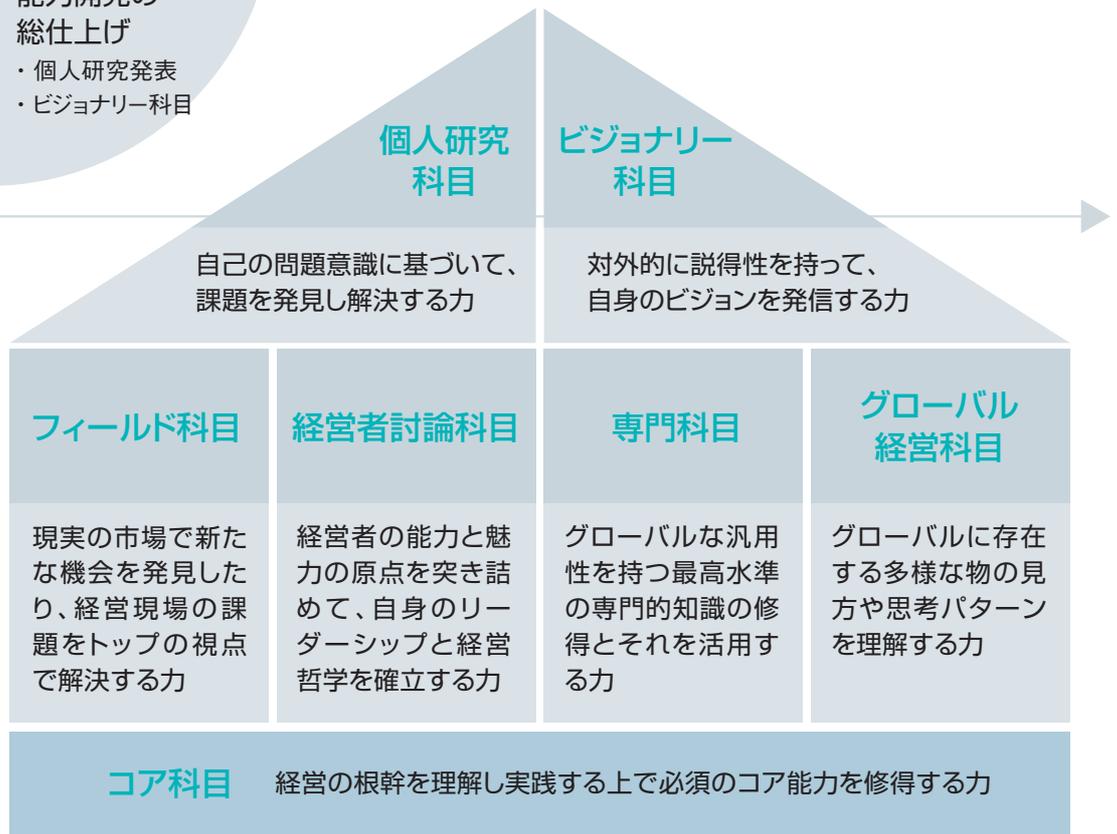
2学期

個別テーマの仕上げと対外発信
・専門科目群から選択
・ビジョナリー科目
・個人研究科目

3学期

能力開発の総仕上げ
・個人研究発表
・ビジョナリー科目

体得できる 7つの力

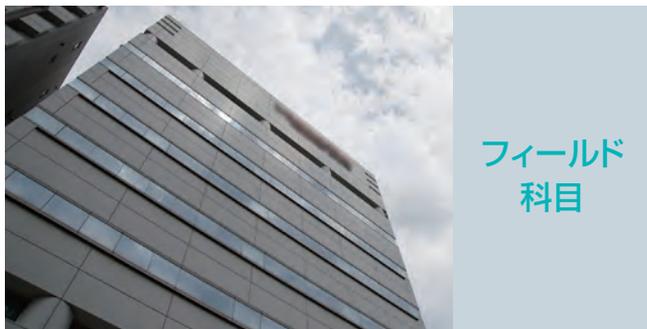




コア科目

- ケースメソッドの実践的授業を中心に、総合的経営管理能力の基本となる主要8領域を徹底的に学びます。
- これまでの実務で携わってきた領域も含め全ての分野に対して、経営に必要な基礎知識や経営のコア能力を鍛え直します。

- 会計管理** 経営の計数管理に不可欠な会計情報について、簿記や財務諸表等の基礎知識および財務比率や管理会計手法などの分析能力を身につけます。
- 経営科学** 情報と論理的思考を駆使して経営課題の解決や意思決定の質を高める定量分析の具体的な方法論、および合理的な意思決定手法について学びます。
- 組織マネジメント** 経営者として組織をいかにマネジメントするか、「組織における人間行動(マイクロ組織行動)」と「経営における組織と戦略(マクロ組織行動)」の2つの視点から学びます。
- マーケティング** 顧客が真に求める製品やサービスを作り、届け、その価値を表現し、そして伝達する、効果的マーケティング手法を学びます。
- 経済・社会・企業** 人・組織をとりまく外部要因に対する理解を深め、外部環境変化に対する企業・組織経営のあり方についての判断能力を養成します。
- 財務管理** ファイナンスと経営財務の基礎、企業価値評価手法、資本コスト算定、経営戦略の手段としての財務戦略やM&A、企業再生等について学習します。
- 生産政策** 企業活動において製品やサービスを提供する「生産・供給機能」とそのためのオペレーションに焦点を当て、課題を発見・分析・改善する視点を養います。
- 総合経営** 企業の経営政策・戦略上の諸課題について、トップ・マネジメントの視点に立って戦略立案並びに実行を指揮するための方法論を学びます。



フィールド科目

- 経営の原理原則に基づくだけでなく、現実の経営現象とその要因を自ら分析し、合理的な意思決定を下す訓練を実施します。
方法としては、国内外の企業の経営者や社員と直接交わりながら、フィールドを調査・研究し、経営者への提言を行い、経営の修羅場に肉薄します。

2015年度フィールド科目 協力企業(予定)

国内



キーコーヒー株式会社
海外におけるコーヒー農場事業から、コーヒーの製造、販売、ならびにコーヒー関連事業経営に至るまでのコーヒーに関する総合企業



オオサキメディカル株式会社
医療材料(医薬品、医療機器、医薬部外品、化粧品等)、看護・介護製品及び産科・婦人科ブランド“dacco”の製造販売

海外

- 欧米、アジアやアフリカ地域を中心に、KBS提携校と協同で行う短期型のフィールド科目です。

STEP 1

フィールド事前研究

STEP 2

フィールド研究・フィールド合宿

STEP 3

経営提言



経営者 討論科目

- 企業経営者、現役閣僚、芸術家など、1つの領域において頂点に位置する人物との出会いを設定し、1) 事前の調査学習、2) 講演と討論、3) 学びの整理というステップを踏みながら、単なる講演拝聴に終わらない能動的な知的活動を行います。



〈合宿型〉

グローバル 経営科目

- 国外の有力ビジネススクールから講師を招いて多様な視点と物の考え方を学び、自らの価値観を相対化する機会を持ちます。単に国外の知識を伝授することは一線を画し、講師との討論の中から新たな知見を見出すことを狙いとします。

2015年度
招聘講師(予定)

2015年7月24日(金)–26日(日)
HEC Paris / Dr. Nathalie Lugagne Delpon

2015年12月18日(金)–20日(日)

National University of Singapore / Dr. Prem N. Shamdasani



専門科目

- 経営人材にはジェネラリストとしての能力と専門性の双方が求められます。その後者を強化するのが専門科目群です。厳選された専門科目は、その領域の研究者としての側面を併せ持つ教員によって担われます。各コア領域からバランスよく専門科目が設定されます。科目内容の一例(予定)

グローバルイノベーションマネジメント・財務分析報告・市場戦略論・マネジリアルエコノミクス・企業戦略論



個人研究 科目

- 専門科目だけではカバーできない、さらに深い専門的課題の追究を行います。自らの時代感覚と問題意識に基づき、自身あるいは所属する組織が直面する課題への解決策を分析・考察します。個々のテーマに応じ、関連領域の教員が指導にあたります。



ビジョナリー 科目

- 結局我々は2年間で何を学び、何を世に問うのか。これがビジョナリー科目の主題です。その時代が抱える問題とそれへの解を各年度の参加者が共同で執筆し、世に問います。個人研究科目と並び、本プログラムにおける学びの集大成となります。

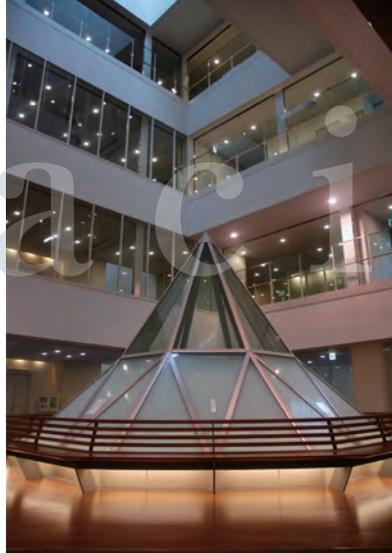


〈選択制〉

国際交換留学 と ダブルディグリー プログラム

- 本プログラムでは、業務上の調整が可能であることを前提として、当校の提携校(全世界で45校)へ2年次2学期に1学期間の留学ができます。またESSECとHEC Paris、WHUの3校とはダブルディグリープログラムも設定しています。こうした経験を通じ、さらに国際的な経営の知見を学ぶ機会を得られます。

施設紹介



エグゼクティブセミナールーム



宿泊施設



協生館図書室

Facilities

協生館

慶應義塾創立150年記念事業の基本コンセプト「『独立』と『協生』」の2つの焦点を持つ開かれた学塾のうち、「協生」＝「協力して生きる力」を育む場として、2008年 8月に完成しました。

KBSの他に「システムデザイン・マネジメント研究科」「メディアデザイン研究科」の2研究科、イベントホール、レストランやフィットネスクラブなど、学内外の多様な人々を対象とした施設があります。

また、横浜市が全国の自治体に先駆けて実施した、環境に優しい建物を認証する制度(CASBEE横浜認証制度)の第1号として、最高位「S」ランクの認証を受けています。

エグゼクティブセミナールーム

ケースメソッド授業のクラスディスカッションに最適な階段型教室のエグゼクティブセミナールーム。自然光が入る大きな窓と、スペースを贅沢に使った教室レイアウトであり、開放的かつ落ち着いた環境で授業に集中できます。

人数は50名まで収容可能。授業施設が充実しており、国際テレビ会議等も行われています。

同5階フロアにはディスカッションルームも5つあり、グループ討議等に利用されます。

宿泊施設

7階には宿泊施設があります。

客室には冷蔵庫、収納スペースがあり、シャワー・トイレ完備です。共同のランドリー、キッチン、ラウンジのスペースもあります。

協生館図書室

4階にある図書室では、KBSの研究分野にかかわる生産管理、マーケティング、金融、財務等の経営関連専門書など、約7万冊の図書・雑誌資料を所蔵しています。

有価証券報告書データやBloombergなど企業研究に特化したデータベースを始めとし、国内・国外の新聞記事、雑誌記事、学位論文、統計等のオンライン・データベースや電子ジャーナルも利用できます。

※塾内6キャンパス(三田、日吉、湘南藤沢、矢上、信濃町、芝共立)のメディアセンターも利用可能です。



慶應型ケースメソッド

ケースメソッドとは、80余年前にハーバード・ビジネススクールが中心となって開発し、改良してきた実践的な経営教育の方法です。ケースメソッド授業は、実際の経営状況をまとめたケースを素材に、ディスカッションを通して新しい知恵を共創します。

日本においてはKBSが初めて導入し、過去50余年間にわたり研究を重ね、日本のビジネス環境に適応した「慶應型ケースメソッド」として独自に発展させてきました。

最大の特徴

オリジナルケースの開発と、ケース開発者による授業展開

KBSには、3,500余りのオリジナルケースの蓄積があり、さらに毎年100本程度の新作ケースが登録され、常に最先端の経営知見がアップデートされています。

KBSのケースには、教員が企業経営の当事者にインタビューした、ありのままの出来事が書かれています。そこには、事実が記してあるだけでなく、教育の場で取り上げる訓練主題が含まれ、受講者を登場人物の立場に立たせ、その責任において意思決定を迫るように表現されています。そして、実際にそのケースを書いた教員が授業を展開していきます。

[慶應型ケースメソッドの流れ]



世界基準の教育品質保証と国際ネットワーク

KBSは、常に目標を世界のトップクラスに掲げ、高度な教育の質を確保してきました。教育品質の保証のため、日本で唯一、2大国際認証機関 (AACSB International, EQUIS) によるグローバル基準での客観的評価による認証を継続して得ています。

また、世界規模の研究と教育に関する交流を推進するため、国際的なビジネススクールのネットワークに加盟し、共同研究・教員交流・学生の交換留学を積極的に行っています。

なお、仏SMBG社が毎年発表している、「Eduniversal Worldwide Business Schools Ranking」にて、KBSは日本部門第1位にランクインし、かつ世界のビジネススクールの中でも最高ランクを獲得し続けています。



2014.5月時点



高いレベルの研究を多数擁し、最先端の研究を反映した授業を展開



浅川 和宏
教授/多国籍企業経営、組織理論、グローバル・イノベーション論



姉川 知史
教授/企業経済学、応用ミクロ経済学、国際経営、医療経済学



安道 知寛
准教授/経営科学



磯辺 剛彦
教授/経営戦略、グローバルマネジメント



井上 哲浩
教授/マーケティング・マネジメント、マーケティング・サイエンス、マーケティング・コミュニケーション・マネジメント



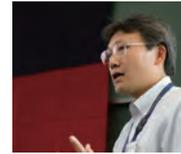
太田 康広
教授/分析的会計研究



大林 厚臣
教授/経済学、産業組織論、リスク・マネジメント



大藪 毅
専任講師/人的資源管理論、労働経済学、医療管理学



岡田 正大
教授/経営戦略論



小幡 績
准教授/企業金融、行動ファイナンス、NPO、政治経済学



河野 宏和
教授/経営管理研究科委員長/生産政策、生産マネジメント、生産管理論、経済性工学



小林 喜一郎
教授/経営戦略論、組織戦略論



齋藤 卓爾
准教授/コーポレート・ファイナンス、コーポレート・ガバナンス、企業経済学



坂下 玄哲
准教授/ブランド・マネジメント、消費者行動



坂爪 裕
教授/生産政策、生産マネジメント



清水 勝彦
准教授/組織マネジメント、企業変革、M&A、戦略実行・変更



高橋 大志
准教授/企業財務、ファイナンス、アセットプライシング



中村 洋
教授/経済学、産業組織論(ライフサイエンス、ヘルスケア、IT)、経営戦略論



林 高樹
教授/計量ファイナンス・金融工学、応用確率論



林 洋一郎
准教授/産業・組織心理学、組織行動、社会心理学



村上 裕太郎
准教授/分析的会計研究、税務会計



山本 晶
准教授/インターネット・マーケティング、マーケティング・マネジメント、消費者行動



余田 拓郎
教授/マーケティング戦略、ビジネス・マーケティング、事業戦略



渡辺 直登
教授/組織心理学、心理測定論

入学試験概要

2015年4月入学 修士課程 Executive MBA プログラム入試概要

本プログラムは、原則として土曜日と短期合宿の組み合わせです。
(ただし参加者の選択によっては、平日夜間の専門科目を履修することも可)

■募集人員 40名(予定)

■出願資格 大学を卒業し、職務経歴が通算15年以上の者
大学院の課程を修了した者は、大学院在籍年数を加えて通算15年以上の職務経歴を有する者

■入学試験の種類

1) 出願方式A: 所属する企業・団体等の推薦による出願

本研究科が指定した企業・団体から派遣される者

(派遣元の条件等については kbs-admission@adst.keio.ac.jp へお問い合わせください)

●書類審査、面接試験

2) 出願方式B: 個人の資格による出願

●一次試験: 書類審査

●二次試験: 筆記試験(小論文)、面接試験

■出願及び選考日程

1) 出願方式A

	出願期間	試験	合格発表
第1回	2014年10月14日(火)～11月4日(火)	2014年11月14日(金)	2014年11月19日(水)
第2回	2014年11月10日(月)～12月1日(月)	2014年12月12日(金)	2014年12月17日(水)
第3回	2014年12月1日(月)～12月22日(月)	2015年1月9日(金)	2015年1月14日(水)

2) 出願方式B

出願期間	第一次試験合格発表	第二次試験	第二次試験合格発表
2014年12月25日(木)～2015年1月19日(月)	2015年 1月28日(水)	2015年 2月1日(日)	2015年 2月4日(水)

■入学検定料 35,000円

■初年度納付金 3,517,600円 (入学金 200,000円 施設設備費 150,000円)
(在籍基本料 60,000円 経営管理学会費 5,000円)
(授業料 3,100,000円 学生健康保険互助組合費 2,600円)

※出願書類やその他詳細に関しては公式Webサイトの入学試験要項(以下URL)をご覧ください。

お問い合わせ

慶應義塾大学日吉学生部 経営管理研究科担当

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1

TEL : 045-564-2441

E-mail : gakuks@info.keio.ac.jp

〈窓口対応時間〉 平日 8時45分～16時45分

・土曜日・日曜日・祝日・義塾が定めた休日および事務室の休業期間中は閉室となります。

・8月11日～8月17日および12月28日～1月5日の期間については、閉室となります。